

## 富士見市立老人福祉センターのあり方の検討について

我が国は、出生率の低下による少子高齢化が深刻化しており、人口減少が加速しています。この変化は労働力不足や社会保障制度の維持などに多大な影響を及ぼしています。

当市も例外ではなく、今後の人口構成の変化やそれに伴う市民ニーズの変化、さらには人口減少による市税等の自主財源の減少、扶助費の増加等による厳しい財政状況が予測されます。これに対応するため、公共施設については現状のまま維持するのではなく、将来の需要に合わせて再編する『公共施設マネジメント』の考え方が求められています。

富士見市立老人福祉センターは昭和 48 年に設置され、開館以来 53 年を迎え、施設が相当程度老朽化している状況です。

このような中、富士見市公共施設個別施設計画第 1 期実行計画の見直しに伴い、令和 7 年 8 月下旬から市民意見聴取等を行うなど施設のあり方について検討を開始しました。

### 1 現在の老人福祉センターの状況について

○高齢者の交流や学び、仲間づくりの拠点として長年に渡り重要な役割を果たしてきており、生きがいや健康づくり、繋がりや醸成に寄与。

○60 歳以上の市民は無料で利用できる（市外の方、60 歳未満の方は有料）。

○2 つの団体（老人クラブ連合会・富士見コミュニティ大学）が、100 人を超える規模の活動の拠点として利用している（大部屋で全体会、小部屋で民謡・美術などのクラブ活動を実施）

↓

今後高齢者が増えることが想定される中、利用者は増えるか

↓

○介護保険法の制定や地域包括ケアシステムの進展、民間サービスの充実等の環境の変化により利用者数は減少傾向にある（平成 29 年度 41,274 人⇒令和 6 年度 21,533 人

○年間の個人の実利用者は 250 人程（コアユーザーの固定化）。

↓

修繕又は長寿命化工事を行えば今後も使えるのではないか

↓

○鉄筋の爆裂、白華現象（コンクリートの劣化）、雨漏り・漏水、床の脱落、地中水道管の劣化等が見られるが、修繕を重ねながらの使用には限界。長寿命化工事も築年数から困難。

↓

建て替えれば利用者は増えるのではないか（現地建替え）

↓

○高齢者の趣味や余暇の過ごし方は多様化しており、現地での新規利用者の拡大は厳しい

○市街地から離れた立地であり、送迎バスや車での来館が中心（利用者の高齢化により移動手段の充実が求められる）。

○建て替えるには莫大な費用がかかることが見込まれている。

### 2 老人福祉センターの機能を分類し、必要な機能を整理

① 教養の向上（老人クラブ連合会・富士見市コミュニティ大学の教養講座等）

② 居場所・憩いの場

③ 健康の増進（介護予防教室、入浴、ヘルストロン等）

④ 各種相談（生活相談、健康相談、生業・就労相談）

⑤ レクリエーション（麻雀、カラオケ）

⇒①②の機能は今後さらに重要性が高まり、必要な機能と考える。

③～⑤は他サービスで代替可能

### 3 今後の方向性

○高齢者の活動やつながりを まもり・続け・広げていく ことが必要

○今後の施設整備は、公共施設マネジメントの視点を踏まえ進めていく必要がある。

○そのため、集いやすさ、利用しやすさ、交流の多様性、利用の柔軟性・拡張性を考慮し、既存公共施設へ機能移転を行い、必要となる老人福祉センター機能を守りながら、公共施設の有効活用の両立を図ることが望ましいと考える。